

周年事業のコンセプトに基づき 語学重視の心理学科を新設

西南学院

西南学院大学を運営する学校法人西南学院は、2016年に創立100周年を迎える。2010年に100周年事業推進室を設置。建学の精神をわかりやすく示した4つの基本コンセプトに基づいて、強みを増すためのさまざまな企画を進めている。周年という節目が、学内にいくつもの変化を生んでいる。

教育改革に取り組み 次の100年への道筋に

西南学院は保育所から大学院まで、1万人以上の園児、児童、生徒、学生と500人以上の教職員が在籍している。2016年の創立100周年は学院全体で取り組む一大事業だ。「100周年事業が“お祭り”で終わってしまうのでは意味をなさない。100年という歴史をふまえたうえで、次の20年、50年、100年へと道筋を示すことが大切」とG.W.パークレー院長は話す。

重視するのは教育の見直しと充実だ。100周年事業の一つとして、2012年4月、大学に言語教育センター棟を新設した。言語教育センターは言語教育を推進・運営する機関で、最新のマルチメディア教材を有効利用し、語学力の強化をねらって新設した。「語学の西南」という強みをさらに増すため」とパークレー院長は説明する。

加えて、2011年度から教育・研究推進機構の組織的な位置付けを明確にし、質の高い教育・研究を可能とする事業展開を検討している。新たな共通科目の提供や、初年次教育などの基礎

教育の充実も図る予定だ。

「100周年は一つのきっかけであり、よい変化のためのチャンス」と話すのは、100周年事業推進室の大杉晋介室長だ。自己点検の結果、抽出した課題や、学長が所信表明で提示した課題など、教育の基盤整備や特色強化を「100周年」を機に一層推進しようとの機運が高まっているという。

実際に教員からの提案で導入した取り組みが、法学部の初年次教育の一環として、2、3年生からレポートの書き方についてアドバイスを受けるシステムだ。そのほか、1、2年次はクラス制を採用して各クラスに主任の教員を配置、学生の相談に乗る。基礎的な学習スキルの向上のため、一人ひとりに対するきめ細かいサポートを始めているという。

アンケート等を参考に 基本コンセプトを設定

2010年7～9月、100周年を迎えるにあたり、高校生、学生、卒業生、教職員など、学内外を対象にアンケート、ヒアリング、ワークショップ等を

実施した。アンケート調査では、西南学院のイメージは学内外共に「キリストチャンスクールである」「国際的、グローバルである」といった回答が多く、以前からのイメージと合致していた。また、100周年事業については「西南らしさや建学の精神を大切にすべき」が最も多い回答であった。

この結果から、100周年事業の企画・運営にあたっては建学の精神を基本にすえた。しかし、パークレー院長は「西南よ、キリストに忠実なれ」という建学の精神は抽象的で、このままでは伝わりにくいという懸念を抱いていた。そこで、これをわかりやすく明確に表現しようと、「人や地域との絆、感謝・貢献」「世界に貢献できる人間教育」「時代を先取りする学術研究」「守り伝える建学の精神」という4つの基本コンセプトを策定した。

教育・研究の改革やキャンパスブランドデザインの策定、イベントなど、すべての周年事業はこれに基づいて計画が進められており、「企画前に基本コンセプトを定めて周知したことにより、かかわる教職員の意識にブレがなくなった」と大杉室長は話す。

新設の心理学科に生きる 100周年のコンセプト

「18歳人口の減少に備え、今から他大学との差別化を図っていかなくてはならない」とパークレー院長が語るとおり、周年事業の一環として2012年度に誕生した心理学科は、他大学の心理学部・学科との違いを出した。

最大の特徴は、英語による授業を取り入れ、グローバルに活躍できる人材の育成に重きを置いている点だ。また、カウンセリングを行う「臨床」と、行動の調査・分析をする「実験」の両領域を広く学ぶため、調査・分析のスキルの修得に力を入れていることも特徴といえる。医療分野のみならず、一般企業でも活躍できる専門知識を身に付けられる。

「現代の企業で問題になっているのが、コミュニケーションのトラブル。西南学院の教育の根本にあるキリスト

教に基づいた人格教育を受け、さらに心理学の専門教育を受けた人材だからこそ貢献できる場があると思う。企業はグローバル化が進んでおり、語学に秀でる本学の卒業生が活躍できる可能性は高い」とパークレー院長は話す。

心理学科が属する人間科学部は、2005年度に児童教育学科と社会福祉学科が文学部から分離して誕生した。当時から心理学科の開設が検討されており、100周年にあたる年に最初の卒業生が出るという記念すべき事業となった。これには大きな意義がある。心理学科のめざす人材像が、100周年事業の基本コンセプトの4つを内包しているからだ。

コミュニケーション能力と思いやりの心で、人や地域と絆を結べる人材を育成することは、「人や地域との絆、感謝・貢献」というコンセプトに合致する。また、英語での授業や、国や文化の異なる人々に対する心理的支援能

力を身に付けさせる教育は「世界に貢献できる人間教育」につながる。さらに、ソーシャルメディアなどの発達によって他者との直接的なコミュニケーションを苦手とする人々の増加が予想される中で、心の健康にかかわるケアをすることは「時代を先取りする学術研究」につながる。他者を大切にすキリスト教の教えの実践は「守り伝える建学の精神」と合致する。

周年事業の一環であり、その基本コンセプトと合致している点と時代が求める学科であるという点で、心理学科の開設は学院の内外に対して大きなアピール力を持つ。

100周年を次の100年を展望するスプリングボードにと考えている学院は、2016年度の第1期卒業生の成長ぶりに大きな期待を寄せる。

2012年から本格化する周年事業の取り組みで次の100年に向けた価値の創造をねらう、西南学院の挑戦は続く。

図表 心理学科のカリキュラムの特徴

